

第2回壮警町町づくり審議会会議結果

■日 程 令和元年11月22日（金曜日） 午後6時30分～午後8時35分

■場 所 壮警町役場 2階大会議室

■出席委員 会 長 清水 修
副 会 長 木村 大作
委 員 川南 恵美子 柴田 暦章 土屋 知実
中山 茂樹 藤澤 憲隆

■欠席委員 高橋 仙行 富田 和也 松原 宣彦

■役場出席者 企画財政課長 上名 正樹
企画財政課主幹 作田 宏明
企画財政課係長 武岡 忍
企画財政課主事 谷永 直樹

- 会議次第
1. 開会
 2. 諮問にかかわる審議について
(1) 第5次壮警町まちづくり総合計画序論について
(2) 第5次壮警町まちづくり総合計画基本構想について
 3. その他
 4. 閉会

1. 開会

2. 諮問にかかわる審議について

- (1) 第5次壮警町まちづくり総合計画序論について
- (2) 第5次壮警町まちづくり総合計画基本構想について

事務局から説明

○審議会委員：序論11ページの（7）生涯学習のところで、中学生フィンランド派遣事業実績が載っているが、その前にもっと町民が生涯学習の必要性を認識しているかどうかのデータを入れたほうがいいのではないかと。ちょうど教育委員会が社会教育中期計画を作成しているところで、そういったアンケートを実施しているので、確認していただきたい。それを載せた上で、フィンランド派遣の実績があればいいと思う。

○町 長：教育委員会に確認しながら、載せるような方向で検討していきたい。

○審議会委員：先日の分野別懇談会で柴田委員の話を聴いて、子どもたちが成長する過程で地域に根付いてもらうことが大事だというのはすごくわかった。私の子どももスポーツ教室等に通っており、とてもいい取組だと感じている。そういうところを伸ばしていければと思う。また、柴田委員が話された「学校は先生たちのためにあるのではなく地域のためにあるものだ」という言葉に感銘を受けた。教育が基本に

あり、そこからまちが育っていくので、生涯学習を厚めに取り扱っていただきたい。

- 審議会委員：序論16ページの望ましい町の姿のところ、今木村委員から話があったように生涯学習というのは全てに関連する言葉である。個人的には中心に位置付けたいという気持ちはある。人口減のないまちという項目は最終目標であるが、あまりにも表現がストレートすぎるので、持続可能なまちにして、それを中心において、人口減のないまちがあった場所が空くので、そこに生涯学習のまちを入れていただけるといいのではないかと。
- 町：町長も生涯学習は大事という話をしているので、工夫して検討していきたい。
- 審議会会長：生涯学習に係る記載をもう少し厚くしていただければと思う。
- 町：基本計画でも生涯学習に係る部分を厚めにしていく必要があると認識している。
- 審議会委員：基本構想は大枠なので、細かいことを基本計画に盛り込んでいただければいいと思っており、大きな話であればこれで問題ないと私は思っている。施策の大綱の体系図も中項目ぐらいまで載せているが、そこも必要ならしょうがないかなぐらいに思っている。（そこまで載せる必要があるのかというニュアンス。）
- 町：中身については、いろいろなご意見があると思う。例えば、基本構想の元気な産業のまちのところ、農林業の振興、商工観光の振興とあるが、その下は雪合戦、道の駅とって個別具体的な表現となっている。そのへんもどのようにしていくか検討している。
- 審議会委員：もう少し大きな方向付けにしていいと思っている。
- 町：役場のプロジェクトチームでも同様の意見があったので、表現については、今後検討していかねばならないと認識していたところである。
- 審議会委員：序論16ページの求められる対策のところ、足の確保という表現はよろしくないもので、別の言葉にしていきたい。
- 町：了解した。
- 審議会会長：将来像の夢・希望へチャレンジは誰がするのか。
- 町：町民である。
- 審議会会長：行政もチャレンジしないのかなと思っている。
- 町：もちろん行政もチャレンジする。
- 審議会会長：こういう計画をつくるたびに人口減少の話になって、ではどうしたらいいのかとなっても、必ず行政は宅地がない、空き家がないという回答をする。農地を転用するには法律があり、農業委員会や振興局から問題視されてしまうと言うが、それは何十年前からそのように回答していると思っている。チャレンジしてくださいと言いたい。新婚さんが空き家に入りたいと思う人はいないと思う。
- 町：空き家については、先日アンケート調査を行った。壮瞥町の空き家の特徴としては、元々親の家に住んでいる子どもが、就職したから出て行って親が亡くなったからその子どもが相続することにはなったが、その子どもは壮瞥にいないので、そのまま空き家になっているというケースが多かった。ただ、仏壇があるためそのまま手付かずという方が多い傾向となっている。ほかにも古すぎてどうしたらいいのかわからないという人もいた。売りにたくないわけではないが、そのままにしておきたいという回答が多かった。
- 審議会会長：土地自体があまりないということも聴いている。序論6ページに戻るが伊達市に出ていってしまう方が一番多いというデータがある。隣のまちに行くぐらいなら壮瞥にいてもいいのではないかと思う。壮瞥にいてもらうためにはどうしたらいいのかと思う。子育て応援住宅の建設、医療費無料化があるのになぜ伊達に行ってしまうのか。

- 町 : 将来を考えた上で、伊達に行ってしまう人もいると思う。
- 町 : やはり一番は壮瞥には土地がないということだと思っている。
- 審議会委員 : 探している人はいると思うが、なかなか土地がない。外から入って来づらい。いいことをやっているのに、入って来やすい環境にない。
- 審議会委員 : 町外から転校の問い合わせがあっても、壮瞥には住むところがないので、伊達の学校に行きます、洞爺湖の学校に行きますという人はいっぱいいる。良い制度をやっても住むところがない。
- 町 : 土地もないし、住宅も空いていない。
- 町 : 壮瞥町の特徴は、公営住宅の借家率がとても高く、民間アパートがあまりないことである。
- 審議会委員 : 中山アパートの入居率もほぼ10割である。しかし、今後、建てたときに入居者が入るかという不安がある。あとは、土地の問題もある。利便性の良いところは農地となっている。あと噴火もある。
- 審議会委員 : 私は建部の公営住宅に住んでいる。新しくできる住宅もいいが、建部の公営住宅は月1万円ぐらいで住むことができる。そういう住宅も必要だと思う。家賃が高いと壮瞥から出て行ってしまふ人もいると思う。
- 審議会委員 : うちの裏手にも昔、従業員が住んでいた家がある。将来的に誰かが入居するとは思っていなかった家だったが、最近になって、若い夫婦から土のあるところで子育てがしたいという相談を受けている。利便性が悪くても土のあるところで家庭菜園をしたいと思っているようで、ご自身で家の中を整理するならばいろいろとやってもいいよという話を進めているところである。そういった場合にリフォーム資金を貸し出したり、シルバー人材等が引っ越しの手伝いをしてくれたりする制度があればいいと思っている。人口を増やそうと思うならば、空き家整理・改修を支援するような事業をやったほうがいいのではないかと。
- 町 : 今も空き家を整理するために活用できる補助金はある。
- 町 : 売ることが前提ではあるが、改修等に上限30万円の補助金を出している。毎年、固定資産税納入通知書と一緒に事業案内を入れて送付しているところである。それを見て実際に活用していただいているケースもある。また、リフォーム補助は、商工会でやっている。ただ、川南委員がそのようにおっしゃるといことは、私たちのPR不足と認識した。木村委員が言われた住宅の関係では、新たな住宅を建てるとなると建設費用等を考慮して家賃を決定するので、今みたいな低家賃とはならないと認識している。
- 審議会委員 : 低家賃にして、入居者になおしてもらおう方法もある。
- 町 : 公営住宅は、法律に基づいて建設し、国の補助も活用しているので難しい。町有住宅ならばできる可能性はあるかもしれない。
- 審議会委員 : インテリアの雑誌で、都営住宅を入居者がなおしてもいいですよという記事を見た。
- 町 : 札幌オリンピックのときにたくさん団地ができたが、そういうところが空いてしまっており、空きがあるからそういう施策を打ち出すことができていると認識している。ただ、壮瞥町の場合は入居率がほぼ100%なので、仮に今言われたことをやろうとするなら、入居率が50%ぐらいになったときにはそういう施策も必要になってくるのかなとは思っているが、今の壮瞥の状況には当てはまらないと思っている。
- 審議会委員 : 基本構想9ページの移住定住促進、住宅政策の推進のところを掘り下げられているものと思うが、ここの文章に書かれていることが、今議論している部分に入っており、町としては課題として捉えていることだと思うので、推進していただけ

ればと思っている。基本構想 1 1 ページには 5 つの施策に基づいてと書いてあるが、4 つではないか。

- 町 : 4 つである。
- 審議会委員 : 基本構想 1 1 ページからの数値目標は 4 つの施策の柱に沿った目標となっているのか。
- 町 : 今載せているのは、第 4 次計画の目標なので、ここも変える必要があると思っている。
- 審議会委員 : 確かに合っていない印象を受ける。それぞれの施策の柱の中で、メインとなるものの数値を載せることが通常のやり方だと思う。
- 町 : 今数値目標は 5 つあるが、5 つにはこだわっていない。それぞれの柱で 2 つ 3 つあってもいいと考えている。
- 審議会委員 : 同感である。例えば、2 本目の柱では、生涯学習のことが書かれているのに、それに関する数値目標がない。
- 町 : 今後、そういう形で目標を設定していく。
- 審議会委員 : 人口目標は持続可能なまちの 1 つの指数としては、なくてはならない。あと数値の妥当性は私たちに聞かれてもというところはある。人口でいうと 2, 4 0 0 人がいいか悪いかは、もっと細かいところまで突き詰めていかないと判断できないので、そこまでするのは難しいと思う。
- 審議会会長 : 改めて住民基本台帳人口と国勢調査人口は何が違うかお聞きしたい。
- 町 : 住民基本台帳人口は、住基に登録されている人口で、国勢調査人口は、病院に長期で入院している人なども含んでいる。
- 審議会会長 : 国勢調査人口も多いほうがいいのか。
- 町 : 普通交付税は、国勢調査人口を元に算出されるので、人口が多いほうが多く交付される。国勢調査は来年度実施され、そこで調査した人口については、令和 3 年度の普通交付税から算定基礎数値に用いられることになる。普通交付税は今 1 5 億円交付されているが、人口一人あたりの交付額は 2 0 万円から 3 0 万円である。もし、来年度の国勢調査で平成 2 7 年度から 3 0 0 人近く減ることになるならば、9, 0 0 0 万円ぐらい普通交付税が少なくなることになる。このことから移住定住対策は必要だと認識している。
- 審議会委員 : 病院の支援も大事で、そうべつ温泉病院の従業員は、壮瞥町に住みたくても住めなくて伊達から通っている例がある。
- 町 : 前々理事者が久保内のふれあい団地を建てる前に、そうべつ温泉病院に住んでもらえるかを確認したところ、住みたいという意向が多かった。しかし、一人も住まなかった。病院としては、住んでもらいたいけど、それは利便性とか買い物の問題があるので、住んでいただけなかったという経緯がある。三恵病院についても仲洞爺団地に住んでいる人はいなくなってしまったので、同じようなことが言える。
- 審議会委員 : 基本構想 6 ページで、(1) 農林水産業の振興について、最初にスマート農業技術の導入等による農業経営の体質強化とあるが、スマート農業はトラクターの自動化やドローン飛ばすことであるので、壮瞥町には、そんなに広い農地はないのではないかと。大規模な土地を持っている農家にとっての利点にしかならないのかなと思っており、町の政策としてはどうなのかなと思っている。あと、農業産出額の目標値の 1 6 億は達成できると思う。私が肌で感じていることは、1 0 年後は今現役で働いている人も 5 0 代、6 0 代となる。1 0 年後はまだ大丈夫かもしれないが、その先を見るとどういふふう農業を続けていくのかというのを考えていかないといけない。1 0 年後、2 0 年後の農家人口はものすごく減るのでは

ないかと思っている。担い手育成・支援をきちんとやらなければならない。結論としては、スマート農業が一番最初に来る文言ではないと思っている。

○町 : 文字では担い手の育成・確保とは書けるが実際にどうすればいいのかというのがなかなか難しいところである。

○審議会委員 : 六次産業化について、農業は水産業等と比べ、とても遅れているように見える。これからは六次産業化を進めていかなければならないと思っている。基本構想8ページの地域を生かす基盤整備はとても素晴らしいと感じている。もう少し長く書かれてもいいような気もしているが、これに力を入れて頑張っていたきたい。

○審議会委員 : 私はスマート農業の文言を残しておいたほうがいいと思う。いきなりトラクターを自動化するというのでここに記載されているものではないと思う。最近、私もドローンを使い始めており、精度も高くなってきている。そういう意味で今後、どんどん広がりを見せて安価になっていくのかなと思っているので、もしそういう話になったときに対応できるように残しておいたほうがいいと思う。

○審議会委員 : 農業は大規模化だけではない。だから、最初に来る文言としては違和感を覚えた。確かに畑の圃場の温度や湿度のデータを携帯で見ることができるようにはなるので、そういうところで人手不足を補えばいいなと思う。

○審議会委員 : できればスマート農業の商工版があればいいなと思う。商工業者に対する補助がなさ過ぎる。この前も経産省に要望してきたところである。

○審議会委員 : 基本構想6ページの(2)商工観光の振興のところ、町内の消費を促すため、商店街の活性化に努めますとあるが、いいことは書いてあるが、何をするのかなのというはある。企業努力にも限界がある。あそこ(滝之町商店街)がメインの商店街と考えるならば、もっと人を呼び込むことを考えないといけない。そのへんは大事になってくると思う。

○審議会委員 : あまり細かく基本構想に書いてもしょうがないのでは。

○町 : 文言を見るとなかなか難しいのではという声もあると思う。一次産業への補助はあるが、二次産業以降への補助はなかなかないというのは昔からである。基本構想の書き方はスマート農業を後ろにして担い手を先に入れるとか、並べ方によってもイメージが変わってくると思っている。

○審議会委員 : 北海道の農政事務所は町の相談には乗ってくれないのか。

○町 : 担い手の関係は相談させていただいていると思う。伊達市にある改良普及センターと連携してやっていると思う。

○審議会委員 : 全体的な話をすると、人口は減らしたくない。農業をやる人がいない。空き家はある。そういう困っているところと呼び込みたいところを合致させていくことがいいのではないかと思う。絵に描いた餅にならないようには細かいところから、困ったところと困ったところをどのようにしていくのかを考えることが近道ではないかと思っている。いきなり、ここに住むというのではなくて、ちょっと住んでもらって、それも畑があるところに住んでもらって、畑を耕したり、湖まで歩いたりすることで、魅力を感じてもらいたい。また、伊達の道の駅はキャンピングカーで寝泊まりしている人が多い。それは徒歩で飲み屋に行けるからである。壮瞥だと商店街のところにキャンピングカーサイトみたいなのがあればいいのではないかと思っている。そういうことを意識できないのか。

○町 : 旧役場庁舎跡がその場になるのかなと思いつかんだ。前にも交流人口を増やすことで、駐車場とかスペースをつくらうという構想はあった。思いつくところはそこぐらいしかないかなと思う。

○審議会委員 : 北の湖記念館のところでもいいのではないかと思う。温泉もある。

- 審議会委員：滝之上キャンプ場を閉鎖したことが、すごくもったいないと思っている。今なら絶対人が来る場所である。今何もないというのが残念である。
- 町：その意見は、分野別懇談会でも出ていた。
- 町：滝之上キャンプ場は森林管理署の土地になっていて、キャンプ場が閉鎖されたときに、土地をどうするかの話があったが、町で管理することができなくて、委託するところもなく、返してしまった経緯がある。
- 審議会委員：基本構想6ページの(5)企業・人材誘致について、遊休施設等を活用したとあるが、遊休施設等とはどこか。
- 町：久保内保育所、立香ふれあいセンター、蟠溪ふれあいセンターがある。サテライトオフィスは、全国でも増えてきており、インターネットさえつながればどこでも仕事ができるので、会社を誘致していくのも1つの手ということで記載している。
- 審議会委員：なかなか地方に来るのは難しいのかなと思っている。
- 審議会委員：業種は限定されるかもしれない。それとある程度大きい企業になると思う。
- 審議会委員：ワーケーション（ワークとバケーションの組み合わせ）という言葉があって、仕事をしながら、子どもとの時間をつくるということが注目を集めていて、そういうのがワーケーションのオフィスとしていいのではないと思ったが、遊休施設が3つぐらいしかないということがわかった。
- 審議会委員：遊休施設だけではなく古民家の活用も考えられる。古民家を大企業が買うことも考えられるので、空き家対策にもつながると思っている。
- 審議会会長：基本構想7ページの(2)生きがいくりの中で、高齢者が生きがいをもって自立して生活と書いてあるが、高齢者事業団が何年前になくなってしまったので、高齢者が仕事に出合う場がない。そういうことがあるのに、そんなこと言えないのではと思う。
- 町：社会福祉協議会で、仕事をつなぐ事業をやっている。
- 審議会会長：ボランティアみたいな感覚で、こういうのを頼みたい人がいるから、こういう人がいるよぐらいのものだと思う。
- 町：こういう働きをしませんかということもあったと思う。当初は、昭和新山の駐車料金の集金業務の募集を出していた。
- 町：最初は町のお知らせに載せていたが、スペースが大きくなってきたので、社会福祉協議会のほうで個別に発出していただけないかという話をしたところである。
- 町：前の高齢者事業団のようなこういうことを頼めませんかみたいなのが、町ではできなかったので、社協にお願いした経緯がある。
- 審議会会長：例えば、草刈りを頼みたいとなれば、社協に頼むことになるのか。
- 町：そういう人が登録されていれば、紹介してくれると思っている。
- 審議会委員：壮瞥町ハローワークみたいな掲示板があって、そこに草刈り程度ならできますよとか1日2時間程度の仕事がありますなどの情報があればいいなと思っている。
- 審議会委員：町内でマッチングサイトみたいながあればいいと思う。誰かが書き込んで、それを見るという感じがいいと思う。
- 審議会委員：書き込むのは、お年寄りにはできないので、やはり掲示板があればいいと思う。
- 審議会会長：伊達にはシルバー人材センターはある。
- 町：社協の事業については、改めて確認させていただきたい。
- 町：高齢者事業団がなくなったときに、シルバー人材センターをつくれなかったのが、社協にお願いした経緯があると認識している。
- 審議会委員：人材バンクはつくれると思う。あとは窓口が社協なのか直接なのかというのはあると思うが、トータル的な人材バンクができればいいと思っている。

- 審議会委員：昭和新山地区の活性化についても、何かアイデアを募集しないとイケない。
- 町：昭和新山地区もいろいろと話題に出てくるので、視点の1つとして捉えている。
- 町：これまでも調査をしてきているが、平成27年度に調査したときは、土地と建物の権利者の問題があって、そこが1番解決しなければならない問題と捉えている。
- 町：町長も思い入れがあるので、今後どういうにしていけるかである。
- 審議会会長：三松さんのアドバイスを受けながら昭和新山に入ることができるようにしていけばいいのかなと思っている。駐車料金が取られるので、下のほうに駐車できるスペースをつくって、トレッキングコースをつくるのもいいのでは。
- 町：このような懇談会では、資源を生かす必要があるという意見をいただくので、計画に盛り込んでいけたらと思っている。
- 審議会会長：未来（50年後）の町民が50年前にこの計画があったから、今こういうふうになっているのだよと思えるまちになればいいかなと思っている。目先のことではなくて、そういう発想の仕方もあるのかなと思っている。
- 審議会委員：50年後に、50年前にやってよかったと思うことは、農業の担い手確保とか次世代につなぐということであり、もし、やらなかったとしたら50年後に後悔すると思っている。都会に住んでいて土に触れたい人と田舎の農業の人手不足をマッチングできないかなと思っている。両者に利点があるようなことを考えていければと思う。
- 町：昨年、地域起こし協力隊員が都会の親子を壮瞥町に招き、親子キャンプというのを企画して実施した。そこで、農家の方からいただいたスイカを持っていくと、お母さん塩持ってきてと言っていた。これは、塩かけなくても美味しいよと言って食べさせると本当に美味しいと言っていた。都会の人が土に触れたいと思う気持ちもわかる。
- 審議会委員：本州では、気温が温暖化していくことにより、作物が採れなくなる状況になってくる。そして、最終的に残るのは北海道の農業であり、日本全体を支えていくことになると思う。その根幹は単一市町村が活性化していくことが必要である。活性化していくことは見えているがどういうふうにしていくのかというのが今重要になってくる。
- 審議会委員：BCP（正式名称：事業継続計画）という各企業の危機管理マニュアルというものがあって、その役所版があればいいのではないかと思った。
- 審議会委員：まちづくりというのは、5年10年15年30年見越して、ビジョンを持たなければならない。どのようなビジョンを持ってやっていくのか、その発想ができるかできないかである。

3. その他

- 町：次の会議は、12月17日18日19日のどこかでやりたいと思っているので、都合をお知らせいただければと思っている。内容は、今いただいた意見を反映させた序論と基本構想、あとは基本計画について素案をお示しすることができると思っているので、それに対してのご意見をいただければと思っている。